

- 1 日時場所 令和5年9月29日（金）9時30分開会
南魚沼市民会館 会議室研修室
- 2 出席者
委員：岡村秀康教育長、西野仁委員、角谷正雄委員、須藤文子委員、川島亜紀子委員
事務局：片桐教育部長、関学校教育課長、西潟社会教育課長、吉田生涯スポーツ課長、山田子ども・若者相談支援センター長、小林図書センター長、小島管理指導主事、南雲管理指導主事、近藤指導主事、種村教育相談指導主事、中村指導主事、青木学校庶務主幹、山田施設主幹、林学校指導係長
- 3 議題
日程第1 **会議録署名委員の指名について**
西野仁委員、川島亜紀子委員

日程第2 **教育長及び事務局諸報告**
(教育長) (日程2ページ、教育長及び事務局諸報告のとおり)
(教育部長) (南魚沼市表彰式について、資料に基づき補足説明)
(角谷委員) 11月18日にカナダ・ビクトリア派遣生選考検査とあるが、いつ頃予定されている事業か。
(教育部長) 派遣の日程は令和6年3月24日から4月1日。募集案内は、市報10月15日号への掲載と、市内の中学校へ個別に配布する。

日程第3 **管理指導主事等からの報告**
(南雲管理) 中学校では運動会が開催された。
(小島管理) 特認校である栃窪小学校、後山小学校の来年度の入学の募集が10月1日から始まる。
(近藤主事) 令和6年度小学校に入学する子ども達のスクリーニング検査を行っている。
(種村主事) これから行事が多くなるため、不適応を起こす子どもが出てくるのではないかと心配している。個に目を向けて支援していきたい。
(西野委員) 特認校について、今後それぞれの学校では、地元の子どもの入学がなくなるという話があり、どこまで学校が存続するのか地元の人達は不安に思っている。今後の学区再編等検討委員会でも考えていく時期にあるのではないかと感じている。
(教育部長) 学区再編等検討委員会では、特認校についても検討することになっている。委員からは、地域の人達の話をよく聞いてもらいたいという意見が出ている。
(川島委員) いじめが原因で保健室登校している児童生徒はいるか。
(南雲管理) 実数は把握していないが、いじめが原因となって、保健室や別室に登校している生徒はいると報告は受けている。
(小島管理) 全ての学校に確認したわけではないが、いじめを1つの要因として登校を渋るようになった児童が、学級復帰に向けて、段階的に別室登校として保健室を利用しているケースは把握している。
(川島委員) 被害にあった児童生徒が保健室に登校することが多いと思うが、最近では加害者を保健室に登校させて、被害にあった児童生徒は教室で授業を受けるというスタイルを取り入れている市町村が増えていると聞いた。加害者も問題を抱えていることがあると思うので、状況に応じての対応も必要ではないかと感じている。

- (南雲管理) 加害側も被害側もしっかりと自分を顧みて望ましい方向へ行くことが大事。現在は、加害側の別室登校については把握していない。被害側をしっかりとしり通すために、どうしたらいいかを考えていく。
- (小島管理) 小学校でのいじめ報告では、一方だけを別室登校にするのではなく、学級に双方がいる中で、お互いの人間関係を改善していく方法が多いと感じる。しかし、場合によっては、別室登校の措置をとる事もあると認識している。
- (川島委員) 難しいと思うが、状況に応じてそういったことも考えていってもらいたい。
- (須藤委員) コロナウイルス感染症の影響により学校生活の中で個で動いていたものが、今後は集団で動くようになっていくと思うので、これまで以上に細かい観察や対応が必要になるのではないかと考えている。
- (教育長) いじめに関しては、学校だけではなく、教育委員会としても丁寧に進める必要があると感じている。管理指導主事をはじめ、場合によっては特別支援担当指導主事、教育相談担当指導主事やスクールソーシャルワーカーが関わって、一つ一つの事案について一番良い解決策を考えている。学校も懸命に対応している。その学校を教育委員会がどのように支えていくか、また、教育委員会だけでなく関係機関がどのように関わっていくかが大切である。
- (中村主事) (日程5 ページ、全国学力・学習状況調査 南魚沼市の概況について資料説明)
市全体として、課題の解決に向けて、読む力の育成を一つの視点として、現行の学習指導要領にのっとり授業改善を進めること、分かりやすい授業を行って子供の学ぶ意欲を高めること、内容や課し方、ICT を活用するなどの工夫を凝らし、継続した宿題や課題を課すことで、家庭学習の習慣をつけその充実を図ることの3点が重要であると分析している。校長会でも、各校で対策を進めてもらいたいと話をした。センターでは引続き、子どもの学力向上に向け、学校訪問等々、学校を支援していく。
- (角谷委員) 南魚沼市ではスマホ等の利用時間が長いと言われているが、このことについて、校長会ではどのように考え、どう指導していくのかという話は出ているか。
- (中村主事) 日本小児科医会が出している「スマホの時間 わたしは何を失うか」というポスターの画像データを取寄せ、問い合わせのあった学校へ配布をしている。
- (小島管理) メディア接触については、大変大きな問題として捉えている。例えば強調週間などを設け、メディア接触の時間をコントロールできるようにしている。しかし、既に小学校に上がる時点で長時間のメディア視聴が習慣化している児童がいるという現状があり、就学時に行うスクリーニング検査時の説明でも継続して話をしているが、劇的に改善するような状態にない。
- (角谷委員) 生活習慣として継続していける方法を見出すと、少しずつ改善されていくのではないかと感じている。
- (西野委員) 南魚沼市は教育に対する熱量が足りないと感じている。新潟県では、「新潟県教育の日」、「新潟県教育月間」を設けた。新潟県教育委員会も、県民の皆さんの教育熱をどう上げていくか、教育に対する関心度をどう上げていくかを課題としていると私は思っている。南魚沼市も、どうやれば学力があがるかとかではなく、教育の関心度を高めることをやらなければいけない状況まで追い込まれてしまったというのが現状だと思っているので、特別チームを作る等考えた方がいいのではないかと。
- (川島委員) 家庭の考え方に大きな違いがあると感じていた。この現状を家庭ももっと知らなくてはいけないし、危機を感じなければ、変わっていかないだろうなと思っている。この地域の考え方を変えていく改革的なことが必要なのではないか。スポーツではいろいろな大会があったり、イベントが行われているのに、学習に関しては全くない。そこで、この日は皆で読書をしようとか、少しずつの意識の変わりが必要なのではない

かと感じている。小学校から中学校に上がる時に成績が下がるような気がするので、そこで少し仕掛けを加えながら取組んでいけば、中学生生活ももっと変わってくるのではないかと感じている。

(須藤委員) 今までは、数字的などところに目が行き、学力が伸び悩んでいると言われ続けていた。学習と生活は、両輪だと思っている。学習の方だけに主眼を置くのではなく、もう少し生活の部分で、家庭と連携しながら、そこにメスを入れていくことも必要なのではないかと。

(小島管理) メディア時間の多さは、家庭学習の少なさに直結する。学校が細やかに指導しても解決していかない現状は、肌身に感じている。PTA 総会等で、学力の問題、メディアの問題について話をする取組を進めている。

(南雲管理) 今年度南魚沼市では、学習指導センターを中心に読む力に視点を置き進めている。そこで教科書を丁寧に読み、教科書を読むことは面白いということ伝えることによって、子ども達自身の力がそこについてくるのではないかと考えている。子どもの変わった姿を家で見ると、保護者も気づくことがあると思う。私達が今できるとしたら、直接そこにいる子ども達に、先生方が熱量を出しやすい環境となるようサポートしていくことが大事なのではないかと感じた。

(近藤主事) 特別支援の子ども達を見ていると、課題解決が自信につながっていると感じられる。また、指導者としても、課題の提示、教材の準備、提示したら必ず本人を褒めるという次につなげていくスタイルを続けていくことが大事だと感じている。

(種村主事) 発達外来のドクターは、18歳まで子ども達の自己肯定感を下げないようにと話している。そのため、家庭でも、学校でも笑顔で褒め認めてもらうように話をしている。

(中村主事) 子ども達が自ら学ぶことは素晴らしいことだが、とても時間がかかる。現状では、周りに楽しいことがある中で、どうやって勉強に向かわせるかということ冷静に考えると、いい授業で引っ張ることも大事だが、ある程度強制的に勉強をやらせることもしないとイケないのではないかと感じる。

(教育長) 管理指導主事等から意見が出たが、教育委員の皆さんからご意見をいただきたい。

(須藤委員) それぞれの小学校、中学校の学校長もいろいろな課題を教育委員会の指導のもと、こうやっていこうと考えていると思う。しかし、学校あるいは地域の特性もあって、なかなか全小中学校一律に同じことをするというのは難しい。具体的な取組を、教育委員会から校長会等で提案し、議論するなどして共通実践事項を積み重ね、南魚沼市の小学校、中学校が同じ歩調で一つの目標に向かっていければと思っている。

(川島委員) 学校が出す課題や宿題は、少ないと感じている。内容を吟味しながら、課題を決めて与えてあげた方がいいのではないかと。課題が終わらなければ自由な時間はないというように、家庭にも協力してもらいながらやっていかなければ、学力は本当に上がらないと思っている。子ども達が自分の学力低下をどこでどう育むか、勉強が楽しい、勉強って自分のためなんだと認識しなければ継続は出来ない。そこを気付かせるものを学校の中、家庭の中で与えていく必要があるのかと感じている。家庭の中での将来についての話合いの場等も少ないように感じるので、そういった場というのも必要ではないかと感じた。

(西野委員) 昨年までは、校長に任せようと言っていたが、ここまで差があるということは何か問題があるのだと思う。学校教育だけで上手くいくわけではない。社会教育も含め大人の教育も必要だし、スポーツだって重要なことだと思う。とにかく、我々はもう少し教育が必要だということの認知を行っていかねばいけないのではないかと。メディア接触が悪いと言うが、いいメディア、いい教材も多くある。メディアの時間が多いいが悪いのではなく、何を見ているのかの問題だと思う。小さくてもいいから、南

魚沼市教育委員会はこういう方向性を望んでいるとアピールできればいいと思っている。

(教 育 長) このことについては、継続して教育委員の皆さんとも相談していく。事務局でも、この意見をもとにして何が出来るかということ、具体的に検討してもらいたい。教育委員の皆さんから、今までで一番はっきりと南魚沼市の教育に何が足りないかというところも含めて、意見をいただいた。学校教育だけの問題ではない。教育委員会全ての部署に関わることなので、総動員で具体的に考えていくことが必要だと思う。

日程第4 **第31号議案 令和5年度南魚沼市学齢児童生徒の就学援助認定の可否について（8月申請分）（資料は当日配付回収）**

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第5 **第32号議案 令和5年度特別支援教育就学奨励費の支弁区分の決定について（資料は当日配付回収）**

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第6 **そ の 他**

(1) 子ども・若者相談支援センターの相談等状況について（8月分）

(子若センター長) (日程7ページ、8月分相談等状況について資料説明)

質疑なし

(2) 家庭教育支援事業実施状況（8月分）

(社教課長) (日程9ページ、8月分家庭教育支援事業実施状況について資料説明)

前回質問のあった、読み聞かせボランティア等への謝金について回答する。読み聞かせについては、やりたいと手を挙げた方から行ってもらっているため、謝金を支払ってはいない。

(川島委員) 市の事業として、それでいいのか。

(教育部長) その方の成果を示す場になっている。お互いがいい関係の中で発表し、それをだんぼの部屋の主催事業とする部分については、報償費をお支払いしていないという考え方。今後も、本人の意思を確認しながら進めていく。

(3) 学校・地域の連携促進事業実施状況（8月分）

(学教課長) (日程10ページ、8月分学校・地域の連携促進事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(4) その他

(教 育 長) 今後の日程について、次回教育委員会は10月30日（月）午前9時30分から市民会館で行う。第10回教育委員会は、11月29日（水）午前9時30分から市民会館で行う。以上をもって、第8回教育委員会を閉会とする。

11時35分閉議閉会